

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】平成 17 年 5 月 12 日 (2005.5.12)

【公表番号】特表 2001-501851(P2001-501851A)
【公表日】平成 13 年 2 月 13 日 (2001.2.13)
【出願番号】特願 平 10-517732
【国際特許分類第 7 版】
A 6 1 F 2/40
【FI】
A 6 1 F 2/40

【手続補正書】
【提出日】平成 16 年 9 月 16 日 (2004.9.16)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手続補正書



平成16年9月16日

特許庁長官 小川 洋 殿

1. 事件の表示

平成10年 特許願 第517732号

2. 補正をする者

住 所 アメリカ合衆国 テネシー 38116、メンフィス
ブルクス ロード 1450

氏 名 スミス アンド ネフュー インコーポレーテッド

3. 代 理 人 〒530-0047

住 所 大阪市北区西天満5丁目1-3南森町パークビル

電話 (06) 6365-0718

ファクシミリ (06) 6365-9279

氏 名 弁理士 (6524) 野 河 信太郎



4. 補正対象書類名

「請求の範囲」

5. 補正対象項目名

「請求の範囲」

6. 補正の内容

請求の範囲を別紙のとおりに補正する。



請求の範囲

1. 患者の上腕骨頭（11）に対応する骨頭部（22；42）と、

該骨頭部（22；42）が取り付けられる近位端を有し、該骨頭部（22；42）から傾斜角をもって延在し、上腕骨（10）の近位端に受容され、そこに固定されて、該骨頭部（22；42）が上腕骨頭（11）の位置に対応するように人工関節（20；40）を所定位置に保持するように適合される茎状部（24）と、を備え、

該骨頭部（22；42）と該茎状部（24）とが、鏡像対称軸を有する茎状部（24）の長手方向軸線（34）と一致する中心面を有し、

該骨頭部（22；42）に隣接する該茎状部（24）の近位端に、あるいは近位端付近に位置付けられ、約20°～約40°のオフセット角をもって該中心面に対して斜めに配置される、突出リブ（30または32）を更に備える、近位上腕人工関節（20；40）。

2. 滑らかなくぼみ（38）が、前記突出リブ（30または32）および前記中心面と、該中心面の反対側の対応鏡像部分との間に規定される前記茎状部（24）の領域において、該茎状部（24）からくり抜いて形成される、請求項1に記載の近位上腕人工関節（20；40）。

3. 患者の上腕骨頭（11）に対応する骨頭部（22；42）と、

該骨頭部（22；42）が取り付けられる近位端を有し、該骨頭部（22；42）から傾斜角をもって延在し、上腕骨（10）の近

位端に受容され、そこに固定されて、該骨頭部（２２；４２）が上腕骨頭（１１）の位置に対応するように人工関節（２０；４０）を所定位置に保持するように適合される茎状部（２４）と、を備え、

該骨頭部（２２；４２）と該茎状部（２４）とが、鏡像対称軸を有する茎状部（２４）の長手方向軸線（３４）と一致する中心面を有し、

該骨頭部（２２；４２）に隣接する該茎状部（２４）の近位端に、あるいは近位端付近に位置付けられ、実質的に同じ約２０°～約４０°のオフセット角をもって該中心面に対して反対方向に斜めに配置される、一对の突出リブ（３０および３２）と、を備える、近位上腕人工関節（２０；４０）。

４． 前記茎状部（２４）から突出し、前記単数または複数の突出リブ（３０、３２）とほぼ反対方向に前記中心面に沿って配置される支持リブ（２６）を該茎状部（２４）の近位端に隣接して更に含む、請求項１～３のいずれか１項に記載の近位上腕人工関節（２０；４０）。

５． 前記茎状部（２４）が、該茎状部（２４）に沿って長手方向に延在する細長い一对の溝（２８）を該茎状部（２４）の遠位端に隣接して有する、請求項１～４のいずれか１項に記載の近位上腕人工関節（２０；４０）。

６． 前記単数または複数の突出リブ（３０、３２）が、１～３mm程度の厚さを有し、前記茎状部から遠心方向外側に２～５mmの長さをもって延び、該茎状部（２４）の前記軸線に平行に測定して２０～３５mmの長さを有し、前記単数または複数のオフセット

角が約 25° ～約 35° である、請求項1～5のいずれか1項に記載の近位上腕人工関節（20；40）。

7. 前記単数または複数の突出リブ（30、32）が、約2mmの厚さを有し、前記茎状部（24）から遠心方向外側に約3mmの長さをもって延び、該茎状部（24）の前記軸線（34）に平行に測定して約32mmの長さを有し、前記単数または複数のオフセット角が約 29° ～約 31° である、請求項6に記載の近位上腕人工関節（20；40）。

8. 前記単数または複数の突出リブ（30、32）の、骨組織を前記人工関節（20；40）に固定するための手段を更に備える、請求項1～7のいずれか1項に記載の近位上腕人工関節（20；40）。

9. 前記単数または複数の突出リブ（30、32）の、骨組織を前記人工関節（20；40）に固定するための前記手段が、該単数または複数の突出リブ（30、32）に形成された複数の穴（36）を備える、請求項8に記載の近位上腕人工関節（20；40）。

10. 前記2つの突出リブ（30、32）間の前記茎状部（24）からくり抜いて形成された滑らかなくぼみ（38）を更に備える、請求項3～9のいずれか1項に記載の近位上腕人工関節（20；40）。